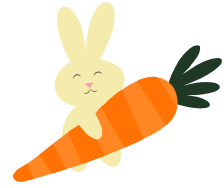


おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)



おたふくかぜウイルスによる感染症です。発症すると、耳下腺が腫れてきます。それ以外にも広がって脾臓、卵巣、精巣だけでなく、脳を含めて全身に影響が出ます。

世界の多くの国では、おたふくかぜのワクチンを定期接種で2回受けているので、流行はあまりありません。しかし日本では、任意ワクチンでお金がかかるうえ、1回だけ接種する習慣になっています。そのため、平均すると毎年約60万人がかかっています。

2—3週間の潜伏期の後に、どちらかの耳下腺が腫れてきます。家族など周囲の人が見ると、腫れているのに気がつきます。しばらくすると反対側も腫れてきます。熱はあったり、なかつたりです。

多くの合併症があります。まず無菌性髄膜炎です。症状は強い頭痛で、嘔吐することもあります。また、一生治らない難聴が起こります。片耳だけでなく、両方の耳が侵されることもあります。年間600名くらい発生していると推定されています。ぜひワクチンを検討してください。

こばやし内科小児科クリニック

